

マジック検証報告

ヴィラ南本宿 リハビリ科
理学療法士 高橋 徹

はじめに

この度「60歳からのマジック入門」(麦谷眞里・著)を参考に、利用者様とマジックを練習し発表会を行った。その中で多々問題点が挙がった。今回は実際に利用者様に覚えていただく過程での問題点と発表会の様子を報告する。マジックの方法の詳細については上記著書に記載されているため、本報告書では記載はしない事とする。

1：実際に行ったマジック

利用者様：新聞紙の復活

職員(自分)：玉子になるハンカチーフ、 エースをとらえよ、「新パン時計」

上記4つのマジックを披露した。上記を選択した理由として

- ① 複雑な動作を含まないもの
- ② 準備に時間がかからないもの
- ③ 利用者様の能力で可能なもの

本来であればすべてのマジックを利用者様の行っていただく予定であったが、練習時間の関係で今回は一つとなった。

2：利用者様の選別方法

- ① 上肢の運動障害がなく、指先の運動機能が良好な方
- ② 持続的集中力があり、練習時間が確保できる方
- ③ 一定以上の高次脳機能があり練習で覚えた動作を本番一人で再現できる方
- ④ 社交性があり人前で話をする事が可能な方

3：実際のマジック

『新聞紙の復活 (利用者様)』

概要

新聞紙(一部)の中からタネがしかけてある新聞紙を一枚取り出し破いていく、破いた新聞紙は鉄板と磁石を用いてタネに固定し、タネを広げるとあたかも破いた新聞紙が元通りに戻ったように見えるマジックである。

問題点と対策

- ① タネ(予め折っておく新聞紙)の準備がやや複雑
→タネ作りと磁石設置は職員が予め準備しておく
- ② 車椅子座位状態で新聞紙を広げた際肩関節屈曲動作が必要であり新聞紙の下部が大腿部に接触してしまい、タネが観客に見えてしまう時がある。
→利用者様の前にテーブルを置きバスタオルを貼り、大腿部が隠れるようにする
- ③ 新聞紙を切っていく際に折り目がしっかり付けられず、まっすぐに切る事が難しい

→事前に職員が折り目をしっかりつけておき簡単に切れるように改良する。また枚数が増えるにつれ、手で切るのが困難になるので「職員さん、破くのが大変なのでハサミで切ってください」と言ってもらいマジックの内容を知っている職員にハサミで切ってもらおう

④ 鉄板の貼り替え時に観客が気づいてしまう可能性がある。

→テーブルの影を利用し鉄板を付け替える。また新聞紙を広げた際に長い時間披露していると磁石に気付いてしまうため、早めに新聞紙を回収するようにする。

実演

本来であれば新聞紙のなかから一部抜き出しマジックを開始するが、今回は予め準備してある新聞紙一枚のみ持っている所から開始した。



「タネも仕掛けもございません」



「職員さん切ってください」



「元に戻りましたあ〜」
(自分側にやぶいた新聞紙がくっついているのが見えます)

利用者様のコメント

はじめはできるかどうか自信なかったけどできてよかった。やってみてとても楽しかった。

『玉子になるハンカチーフ（職員実施）』

概要

左手に底に穴のあいた玉子、右手にハンカチを把持し左右の手をかさねハンカチを穴から玉子の中に入れ、あたかもハンカチが玉子に変わったように見せるマジックである。

問題点と対策

- ① 玉子に穴をあけるので玉子の大きさが大切、大きすぎると手に隠れない、小さいと穴も小さくなりハンカチを入れるのが困難
→玉子は小さめにし、ハンカチでは大きい穴が必要なためティッシュにて対応
- ② 玉子を持っている手（左手）の形が不自然であり練習では何かを持っている事に気付かれてしまった。
→玉子、ティッシュ共に左手に持ちティッシュで手の形を隠す
- ③ テーブル下から準備して観客に見せると準備しているのがわかってしまう。
→予め左手に準備した状態で入場する。

実演



「ティッシュを手の中に入れていきます」



「玉子になってしまいました！！」

利用者様に行って頂く際の注意点

- 玉子を潰さずに把持したまま、中に入れていく事が困難である。
→ピンポン玉を玉子の代わりに用いる。玉子を手指にテープを用いて固定する等
- 穴が小さく入れる事が困難
→大き目の玉子を用いる、職員の手で玉子を把持している周りをフォローする等

『エースをとらえよ（職員実施）』

概要

3枚のトランプ（細工が施してある）を用意し、観客の目の前で「エース」と「3」の位置が移動してしまうマジック



三枚作成



A と 3 は左上と右下の数字が異なる

問題点と対策

- ①小さいトランプでは多くの観客に見せる事ができない
→紙に手書きで模様を書き厚紙に張り、大きいトランプを作成する
- ②トランプの模様が見えないように披露しなくてはならない
→中心の模様を少し小さめにする
- ③インデックス（トランプの隅にある小さいマークと数字）を指先で隠さなければならぬがトランプが大きいため隠しきれない
→指ではなく手掌を用いてマークを隠す

実演



「三枚のトランプがあります。」



「右に置いたに決まってるじゃない」



A と 3 の位置が入れ替わっており、びっくりする一同

利用者様に行って頂く際の注意点

- トランプの上下が大事になってくるので分りやすくする必要があります。
→厚紙に模様を書き上下をわかりやすくする等
- インデックスをしっかりと隠さなければならない
→鏡を用いて練習し把持の仕方に注意する。

『「新パン時計」』

概要

観客の中から腕時計を借りて、紙袋の中に入れる。そうすると紙袋の中から時計が消え、予め用意してあったパンの中に移動してしまうというマジック。観客に好きなパンを選んでいただき、そのパンを観客の目の前で割ると中から観客の腕時計が出てくる。観客から見ると、本当に時計がパンの中に移動したように見える。

問題点と対策

- ①利用者様が腕時計をしていない
→マジックの際にユニットに常備してある消しゴムを用いて行う。
- ②予めパンの中に仕込んであると言われる。
→観客の中から一名選び、消しゴムに印をつけてもらう。
- ③本に記載されているようなパンは 200 円程するためお金がかかる。
→1 個 100 円のメロンパンを用いて行う。
- ③パンかごの後ろに消しゴムを隠すため観客が横から見るとタネがわかってしまう。
→マジック開始時の誘導位置を予め他職員に伝え準備してもらう。

実演



消しゴムにサインを頂いたあと



「ではその消しゴムを袋に入れて
ください」



「好きなパンをお選び下さい」



パンから消しゴムを出した瞬間の利用者様の顔



パンから消しゴムを出したあと
「し、信じられないわあ〜」

利用者様に行って頂く際の注意点

・マジックの難易度、巧緻動作の必要性ともに今回行った中では、一番難しい。また全体の流れを把握するのにも練習が必要である。やりやすい中で選択したつもりであったが、このマジックのレベルは利用者様には困難であった可能性が高い。

終わりに

今回はマジックを利用者様に覚えて頂き、皆様の前で披露していただいたが、皆様ご高齢という事もあり、「マジックを見る」という事には関心があるが、「マジックをやる」という事にはなかなか関心を抱いていただけなかった。利用者様の選別方法の項目に記載した事項が可能であり、「マジックをやる」という意欲が有る方は当施設では各フロアに一人いるかどうかである。今後の課題としては継続して行えるかであるが、今回は検証を含めリハビリ職員である私が行ったが、ユニットケアにおいて利用者様に一番接する機会が多いのは介護職員である。日中の余暇活動として継続的に行いさらなる興味を持って頂く事で積極性がでてくるのではないかと考えている。

現在当施設ではクラブ活動が少なく、余暇時間を有効に使えていない事を改めて考える機会を得た、これを機にクラブ活動を通じて心身ともに活動量を向上させ、さらに利用者様の事を考えリハビリを行えるよう日々精進していきたいと思う。

参考文献

- 1) 麦谷眞里：60歳からのマジック入門，東京堂出版，2011